



Windows 2000 Datacenter Server & Unisys Enterprise Server ES7000

Case Study 8

新規事業の展開をあと押しするWebサーバーを
ES7000とWindows 2000 Datacenter Serverで構築

住友大阪セメント株式会社

業種 製造業
本社所在地 東京都千代田区
URL <http://www.socnb.com/>

住友大阪セメントは、1994年に住友セメントと大阪セメントが合併して設立された会社である。住友大阪セメントは、セメントおよび生コンクリートの製造と販売を中心に、セメントや石灰石そのほかの鉱物からの2次製品の製造と販売を主業務とする業界売上高第3位の大手メーカーだ。10数年前からは本業の窯業に関連するセラミックス事業を足がかりに業務を拡大して「光電子事業」と「新材料事業」を興し、光通信関連部品やセラミックスなどの応用製品などの製造と販売にも力を入れている。

新規事業用のWebサーバーには
24時間365日稼働を実現する耐障害性を要求

世界で数社しか製造していないLN変調器の光電子事業や国内トップシェアのCRT向けコーティング材、化粧品向け酸化亜鉛、抗菌剤や高いシェアを持つPDP用反射防止フィルムの新材料事業であっても、セメント会社の新規事業としての世間一般的には認知度は低い。したがって、インターネットを活用して新規顧客を開拓したり、顧客が製品カタログや仕様書をWebから入手するためには「新規事業専用のWebサイトを開設したいというのが、そもそもの始まりだった」と新規技術研究所フロンティア推進センター サブリーダーの中嶋剛介氏は語る。

すでに構築されている本社のWebサイト内で新規事業を紹介する場合は、全体のバランス上、新規事業だけに大量のページを割いたり、独自の展開を行うことは難しい。また、新規事業の顧客は、従来からのセメント事業・建材事業・鉱

産品事業の顧客とはほとんど重複していない。また、光電子事業・新材料事業といった新規事業の顧客がセメント会社のホームページにアクセスし、それから一部門としての新規事業のコーナーを訪れるのでは、顧客にとって親切ではない。こうした事情から「2つの新規事業だけを取り扱う独自のWebサイトを本社サイトとは別に構築することにした。それによって、新たな事業の展開が可能になるはずだ」(中嶋氏)。

「独自サイトでは製品紹介だけでなく、技術情報も紹介したい。それがこのサイトを世間に認知させる一番の方法」と中嶋氏は考えた。そのため、「新規事業サイトを訪問する人のほとんどはサイトの性格上、開発者や技術者などの専門家になる。サービスの質によっては、製品そのものの信頼を失うことにもなりかねない。したがって、サービスが提供できないようなサーバーダウンは絶対に許されない。そのため、サーバーには24時間365日ノンストップを実現する耐障害性が最も大事」と中嶋氏はいう。

1999年から要件に該当するサーバーを探していた中嶋氏は、米国コムデックスの会場で「ES7000」を知り、ユニシスのセミナーで説明を聞くとすぐに採用を決定した。その理由は、ES7000がUNIXのエンタープライズサーバーと同等の高可用性を実現するWindowsサーバーであることだ。住友大阪セメント社内にはUNIXの技術者が少なく、コスト面からもUNIXの導入は考えていなかった。したがって、OSは当然のようにエンタープライズ利用に耐えうるWindows 2000 Datacenter Serverになった。

サーバー内に複数サイトを容易に構築可能
動的なリソースの再配置可能も導入の決め手に

ES7000を採用した理由として、高可用性のほかに動的な再配置が可能であること、ハードウェアの追加が将来的に保証されており、追加したハードウェアのリソース再配置も自由

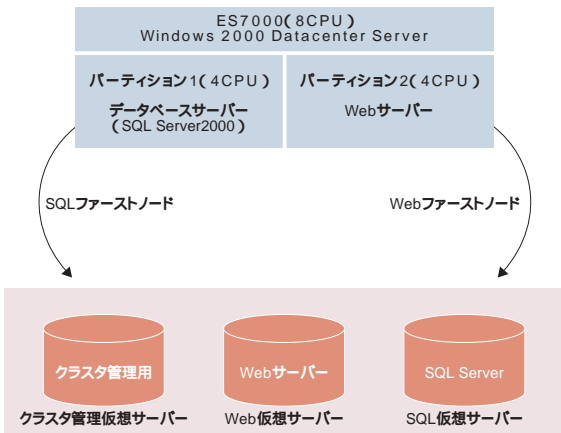


図1 ● ES7000(18CPUを4CPUずつの2パーティション構成で分割し、それぞれOS用(Webサーバー)とデータ格納用(SQL Server)に使用

に行えること、インテルの64ビットCPU「Itanium」プロセッサを搭載できることといった拡張性の高さも考慮した。ES7000は決して、安価なサーバーではない。しかし、将来の拡張を踏まえてトータルのランニングコストを考えれば、小型のサーバーを順次追加していくよりも、ES7000が1台のほうが管理も楽で投資額も少なくて済む。

「ES7000であれば、技術を訴求する会社で使うサーバーとしてこれ以上のものがないということも頭にあった」(中嶋氏)。もちろん、日本ユニシスがハードウェアやソフトウェアのトラブル対応を完全に引き受けてくれるというのが後押しとなった。また、将来構想として、住友大阪セメントでは、関連会社のサイトをES7000上に統合的に構築する構想を進めている。それによって、住友大阪セメント本社と関連会社の互いのシステム運用コストを削減できることにもなる。その際、サーバー内に容易に複数のサイトを構築できる点もES7000とWindows 2000 Datacenter Serverの評価ポイントになった。

新Webサイトがオープンしたのが2001年2月5日で、現在は事業部の製品と関連する研究所の技術論文が提供されている。日本語および英語、各100ページ以上の膨大な情報の中で、研究所の技術紹介ページは過去の技術論文を集めたデータバンクとして、PDFによるダウンロードが可能になっている。

今後の拡張にも十分な余裕があるので 3年後にはEコマースサイトを目標に

ES7000は8CPUを4CPUずつの2パーティション構成で分割し、ネットワーク負荷分散機能で、それぞれOS用(Webサーバ)とデータ格納用(SQL Server)に使用している(図1)。

ES7000の運用は、日本ユニシス情報システムがサポートしており、ES7000本体はハウジングサービスを利用して日本ユニシス情報システムのデータセンター内に設置されている。これは、住友大阪セメント新規技術研究所の電源状況が安定しないため(毎日朝夕の電圧低下や事業所全体の保守停電がある)、24時間365日ノンストップの運用が望めないというのが理由だ。また、Webサイト上のアンケートや問い合わせなどのデータをバックアップする目的で新規技術研究所内にバックアップサーバーを設置し、ターミナルサービス経由で定期的にバックアップしている。

現在、新サイトは専門サイトであるにもかかわらず、1日に約2,000のページビュー(100セッション/日)を記録している。「特に新しい技術論文がアップされるとアクセスも激増する。新規顧客の問い合わせも増えており、新サイトを開設した効果が現れている」と中嶋氏はいう。

「現在は情報提供のサイトだけだが、今後、見積もり自動



▲ES7000本体はハウジングサービスを利用し、日本ユニシス情報システムのデータセンター内に設置されている

回答や見積もりベースで仕様の打ち合わせを行ったり、資材発注(外注の納期管理)や受発注システムのためのサイトを立ち上げる予定であり、3年後にはB2BのEコマースサイトを構築することを目標としている」と中嶋氏は語る。同時にメール用の「Exchange 2000 Server」、問い合わせやサンプル提供などの情報をXMLでデータベース化するための「SQL Server 2000」の導入を進めていく。

現在のES7000にはキャパシティに十分な余裕があるので、今後5年間は大きなシステム変更が必要ないと計算しているが、受発注システムなどの本格的な導入によるサーバー負荷の急増があっても、CPU数を増やしたり、64ビットのItaniumプロセッサの導入などの方法で対処できる。そうした場合でも、筐体やマザーボードを取り替える必要がない点が、何よりもES7000のメリットだ。

(取材/文 板谷芳男)



▲住友大阪セメント株式会社 新規技術研究所フロンティア推進センター サブリーダー 中嶋剛介氏